高齢者の豊かな生活のために　　２０２０年６月１日発行

手 賀 沼 通 信（第２６７号）

Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

今月は手賀沼通信ブログ抜粋です。

旅行に行けなくなり、外出やいろいろな会合への参加も減りました。趣味の活動もなくなっています。そのため手賀沼通信のネタが少なくなってきました。どうしても手賀沼通信ブログからの抜粋が増えています。

古い順に載せているため、昨年のブログとなり、タイミングがずれています。申し訳ありません。

手賀沼通信ブログ抜粋

日本の保釈制度についての素朴な疑問（ＮＯ．１２４５）（令和元年６月２４日）

令和元年６月２３日に逃亡していた小林容疑者が、公務執行妨害容疑で逮捕されたというニュースが報道されました。小林容疑者は実刑が確定していたにもかかわらず、刑務所への収監がされていなかったのです。６月１９日検察庁の事務官などが収容に訪れた際包丁を振り回して逃亡しました。

包丁を持って逃亡したため、神奈川県の愛川町や厚木市では全小中学校が休校するなどという騒ぎになりました。小林容疑者は窃盗などで懲役３年８か月の実刑が確定していたのですが、即座に控訴して裁判中に保釈されていました。

わたしが疑問に思うのはなぜ保釈されたかということです。１審で判決が言い渡されたならなぜその場で刑務所に入れなかったのでしょう。

私は保釈は「証拠隠滅の恐れがない」「逃亡する恐れがない」容疑者が１審の裁判の確定する前に保釈金を払って許されるものと思っていました。控訴した場合は収監されずに保釈が許されるのでしょうか。

小林容疑者は過去複数回服役し、粗暴さは県警内部では知られていたそうです。しかも「逃走罪」ではなく公務執行妨害容疑で逮捕です。刑務所からの逃亡ではないので、保釈中は「逃亡罪」は適用されないようです。

読売新聞によれば、２０１７年には１審判決前に保釈が認められた被告は１万４５５２人、小林容疑者のように１審の段階で保釈され、実刑判決後に再保釈された被告は８０８人だそうです。保釈中に別の事件で起訴された被告は２４６人で１０年前の３倍近くになったと書かれていました。

今回「逃亡する恐れがない」とはだれが判断したのでしょうか。

私は今回の事件から次のようすべきと思っています。

・保釈は実刑が確定したら即収監する
・控訴しても保釈は認めない
・脱税や薬物の利用などを除いて、殺人、強盗、傷害、暴力行為、窃盗など他人に対しての犯罪の容疑者は１審中でも保釈は認めない。

検索のトップは今回のようなことが２度と起こらないよう努力すると言いましたが、それと同時に保釈に関する法律を変えるようにすべきと思います。

法律には素人なので的外れかもしれませんが、今回の事件で感じた素朴な感想です。

２０１９年高校野球甲子園出場校を分析して楽しむ（ＮＯ．１２６１）（令和元年８月８日）

今高校野球夏の大会が甲子園で熱戦を繰り広げています。この暑い中、選手も応援団も観客もごくろうさまです。私は涼しい家の中でテレビで楽しんでいます。

ゲームを見る以外に出場校を分析してみました。これも楽しみの一つです。

最近は私立高校が甲子園を牛耳っています。今年の４９代表校は、私立３５校、県立１２校、市立２校です。

ブロック別では、公立（県立＋市立）は四国と九州が３校、中国と北信越が２校、北海道が０校、

あとは１校ずつとなっています。公立高校が甲子園に出てくるのは大変です。千葉の習志野高校（市立）、兵庫の明石商業（市立）はよく頑張りました。

初出場は、誉（愛知）、飯山（長野）、富島（宮崎）の各高校です。回を重ねるたびに初出場の高校は減ってきます。

２０回以上出場している高校は９校あります。仙台育英（宮城）２８回、静岡（静岡）２５回、智弁和歌山（和歌山）２４回がベストスリーです。歴史を感じさせられます。

３年以上連続出場の高校は７校あります。１３年連続の聖光学院（福島）、９年連続の作新学院（栃木）、５年連続の花咲徳栄（埼玉）がベストスリーです。その努力は並みでないでしょう。

私立高校は公立と違って全国から優秀な選手を集められます。全高校を調べたわけではありませんが、いくつか代表的な高校を選んでみました。ベンチに入れるのは１８名です。その１８名の出身中学を調べました。

八戸学院（青森）は青森県の中学出身は２名で関西が１０名、あとは全国からでした。鶴岡東（山形）は山形県出身は４名、聖光学院（福島）は福島県出身は８名でした。東北の私立高校は比較的他県出身者が多い感じですが、大谷翔平や菊池雄星を生んだ花巻東（岩手）は１８名中１７名が岩手出身でした。旭川大（北北海道）や沖縄尚学（沖縄）はすべて北海道と沖縄の出身者でした。履正社（大阪）は大阪９名兵庫１０名と地元出身者でした。明徳義塾（高知）は高知県が６名、神村学園（鹿児島）は鹿児島２名でした。

私立高校にはそれぞれ選手集めに違った方針があるようです。

高校野球の楽しみ方もまたいろいろあると感じています。

要介護認定を受け要支援１となる（ＮＯ．１２６６）（令和元年９月４日）

令和元年９月４日、我孫子市の高齢者支援課から「要支援１」の通知が届きました。

脊柱管狭窄症から足の痛みが頻繁に起こるようになりあまり歩けなくなりました。家の中ではほぼ普通に歩けるのですが、外を歩くと右足のふくらはぎに痛みが走りしばらく休まないと歩き続けられません。「間欠跛行」という現象です。重いものも持てなくなり、体のバランスも悪くなりました。

我が家は床を高く作ってあるため、道路から玄関に入るとき４段の石段を上る必要があります。最近になって転びかけたこともあります。そこに手すりがあると楽です。介護保険が利用できれば手すりを付ける工事費が３割負担で済みます。そこで要介護認定を受けることにしました。

７月下旬に我孫子市の高齢化支援課に電話したところ、８月１日に介護認定調査員の女性が来てくれました。病気の状態や生活上の不具合をいろいろ聞かれました。８月１９日に調査員から渡されていた「介護保険主治医意見書」の記載を東邦病院整形外科に依頼しました。そして９月４日に「要支援１」の結果が届いたのです。

毎月介護保険の保険料をとられながら、できれば介護保険のお世話にはなりたくないと思っていたのですが、やはり年齢と病気には勝てませんでした。

さっそく我孫子市の「高齢者なんでも相談室」に電話して玄関の外の手すりを取り付けることにしました。家の中の階段やお風呂にはすでに妻が両親のために手すりを付けていました。今のところ住宅の改造はそれだけです。

今後さらに歳を重ねますが、要介護にはならないようにしたいものです。

巨星金田正一元投手死去（ＮＯ．１２７６）（令和元年１０月７日）

令和元年１０月６日、投手として数々の記録を残した剛腕金田正一元投手が敗血症で亡くなりました。８６歳でした。

金田投手は長嶋選手や王選手らとともに私たちの世代を共に生きた英雄でした。

金田投手は投手として不滅の記録を残しています。通算勝利４００勝、通算完投３６５回、通算投球回数５５２６と3/2回、連続シーズン２０勝以上１４年、通算奪三振４４９０、連続無失点６４と3/1回、などです。投手の分業制が増え、完投が少なくなり、シーズン２０勝投手がほとんど出なくなった現在、金田投手の記録が破られることはまず考えられません。沢村賞に３回輝き、完全試合とノーヒットノーランも各１回やっています。

金田投手にはいろいろなエピソードや思い出があります。まず語られるのが長嶋選手が新人として金田投手に対戦した時、４打数４三振で打ち取られたことです。私は当時大学３年生、下宿でラジオを聞いていました。当時下宿の部屋にはテレビなどはありませんでした。巨人ファンだったので悔しい思いをしたのを覚えています。

王選手には超山なりのスローカーブを投げた記憶もあります。当時のピッチャーは球種が限られていました。金田投手は直球とカーブで４００勝を成し遂げたのです。今の投手のようにスライダー、フォーク、カットボール、ツーシーム、チェンジアップなどは投げませんでした。

金田投手は１９５０年愛知県の享栄商業から弱小球団だった国鉄スワローズに入団、１５年スワローズで活躍し、１９６５年巨人に移籍しました。すでに盛りを過ぎており巨人在籍は５年でしたが、巨人での最初の１勝がＶ９の始まりとなったのです。そして４００勝をとった年引退しました。

金田投手は打者としても１流でした。通算ホームランは３８本、そのうち２本は代打ホームランです。代打ホームランの１本は私も覚えています。敬遠されたのは８回、代打で登場し敬遠されたこともありました。

引退後ロッテの監督を経験しました。私は１９７５年から７８年まで仙台に赴任していましたが、当時仙台の宮城球場はロッテが本拠地を構えていました。そして監督は金田監督でした。何度か家族で宮城球場に応援に行きました。１９７４年にはロッテが優勝し金田監督が胴上げされましたが、私のいた３年間は優勝できませんでした。

その後２００勝投手と２０００本安打の選手からなる名球会を設立しました。プロ野球の発展に尽くした功績は国民栄誉賞ものと考えています。心からお悔やみ申し上げます。

吉野彰博士ノーベル化学賞を受賞（ＮＯ．１２７７）（令和元年１０月１０日）

２０１９年１０月９日リチュウムイオン電池を開発した吉野彰博士がノーベル化学賞をスウェーデン王立科学アカデミーより受賞しました。同賞はアメリカテキサス大学のジョン・グッドイナフ教授とアメリカニューヨーク州立大学のスタンリー・ウィッティンガム教授との共同受賞となります。

吉野氏は現在旭化成の名誉フェローです。１９８１年から旭化成で充電池の開発に取り組みました。

電気を通すプラスティック「ポリアセチレン」をマイナス極に使う手法を思いつき、プラス極にグッドイナフ氏らが開発したコバルト酸リチウムを用いて電池を試作しました。さらに同社が開発した特殊な炭素繊維を用いて小型化する方法も開発し、８５年に電池の充電に成功しました。現在のリチウムイオン電池の原型となったのです。

リチウムイオン電池は軽量かつ高出力で、充電して何度も使えます。スマートフォンやノートパソコン、電気自動車などに広く使われています。電気自動車は二酸化炭素を排出せず、太陽光発電や風力発電で作られた電気をリチウムイオン電池に蓄えれば環境面での改善につながります。リチウムイオン電池は今後の科学発展や社会生活にも大いに資することが予想されます。

ノーベル賞の日本人受賞者はこれで２７人目、化学賞は８人目となりました。２年連続です。大変誇らしく思います。また企業内での研究者は島津製作所の田中耕一さんに続いて２人目です。

これからも人類の発展に貢献できる日本人のノーベル賞受賞者が出てくるよう願っています。

大型台風１９号の爪痕（ＮＯ．１２７８）（令和元年１０月１４日）

大型で非常に強い台風１９号は令和元年１０月１２日から１３日未明にかけて、東海、関東、東北地方を縦断しました。

１０月１４日の読売新聞朝刊には、３１名死亡２０名不明と出ていました。死者は神奈川県から岩手県まで１０県にわたっていました。

台風は１２日午後７時ころ静岡県伊豆半島に上陸し、神奈川県、東京都、千葉県、茨城県、福島県を通過し太平洋に抜けました。

大型台風のため各方面で事前の大きな備えをしました。１２日は交通機関の計画運休が行われ、多くのデパートやスーパーやコンビニや商店が閉店しました。いろいろなイベントが中止となり、ラグビーワールドカップも２試合が中止、クライマックスシリーズも延期になりました。

その前の１１日には各家庭での買い揃えのため、

食料品や水の在庫が少なくなり、懐中電灯や電池の販売が増えました。我が家でも停電に備えて懐中電灯を買いそろえ、植木鉢を玄関に持ち込み、雨漏りの備えなどをしました。近くに住む子供たちや愛媛県の妹は心配して電話をかけてきました。

しかし我孫子は大雨も降らず、風も大したことはなく無事に１３日の朝を迎えました。

ところがその後各地の被害がテレビで放送され、台風１９号はやはり予想通りというかそれを超えた災害を待たらしました。新聞には治水能力を超える雨が降ったと出ていました。２１河川が２４か所で決壊し、１４２か所で越水しました。

テレビで大きく報道されたのが長野県千曲川の氾濫です。数多くの家屋が水につかり、長野新幹線車両センターでは新幹線車両１２０両が水浸しになりました。

今回の台風では台風の通ったところだけでなく、離れた場所でも大雨の被害が出ました。日本は毎年のように水の被害に遭っています。昔の伊勢湾台風や狩野川台風などの大型の台風だけでなく、昨年の西日本豪雨など台風以外の水の災害もあります。地球温暖化で大型台風が増えるとも言われています。

今回の１９号のように事前に警告がなされ、それぞれ考えられる備えをしても、台風が通ったあとの報道される風景は変わりません。今回は昨年の西日本豪雨やつい最近の台風１５号での千葉県の惨状や停電の被害を見てそれぞれ備えていたはずです。

今後どうすればいいのでしょうか。解決策は見つかるのでしょうか。私にはわかりません。

札幌マラソンはアスリートファーストでなくＩＯＣファースト（ＮＯ．１２８５）（令和元年１１月４日）

２０１９年１１月１日、東京オリンピックのマラソン会場がＩＯＣ、国、東京都、大会組織委員会の４者会談の結果、札幌で行われることに正式に決まりました。

東京都は夏の暑さを考慮して、時間を早朝にするとか、街路樹を繁茂させるとか、舗装を熱を吸収するようにやり直すとか、ミストを発生させる装置を取り付けるとかいろいろ工夫をしてきました。

ところが９月２８日ドーハで行われた世界陸上の女子マラソンが暑さを考慮して深夜に行われたにもかかわらず、約４割の選手が途中棄権したことから、突如ＩＯＣが東京都に相談することなく一方的にマラソンと競歩の開催地を東京に変更しました。東京都はそれに反対して４者会談になりましたが、開催地の決定はＩＯＣの権限として札幌に決まったのです。

またもやＩＯＣの横暴です。ＩＯＣはアスリートファーストと言っていますが、ＩＯＣファーストなのです。ドーハのマラソン後、欧米のマスコミから批判が出ました。ＩＯＣは東京でも同じことが起こるのではないか、そうしたらＩＯＣが批判されるのではないかと恐れたのでしょう。

小池知事は「東京がベスト」「合意なき決定だ」しかし「大会を成功させる重要性から、決定を妨げることはしない」と述べました。

そもそも夏季オリンピックを「７月１５日から８月３１日まで」ときめたのはＩＯＣです。ＩＯＣが放映権料を稼ぐため、アメリカのテレビ局の希望に合わせて暑い夏に決めたのです。春か秋にすれば暑さの問題は起こらないはずです。ここでもアスリートファーストでなく、ＩＯＣファーストがあらわになっています。

オリンピックが巨大になり費用がかさむことから、開催希望の都市が大会ごとに減っています。ＩＯＣはオリンピックをもっとスリム化するとともに、開催時期を見直すとか、本当の意味でのアスリートファーストを考えるべきでしょう。

余談ですが、いつだった忘れましたが「ＩＯＣの会長は世界一の有名人だ」と聞いたことがあります。たぶんブランデージ氏が言ったのではないかと思います。確かに世界に通用する人と言えば、国連事務総長かローマ教皇くらいで、一国の大統領、首相、国王はかなわないでしょう。それは「だから俺の意志には従ってもらう」という一方的な意味だったか、「だから意思決定や、言動には十分注意する必要がある」という謙虚な意味だったかは覚えていません。バッハ会長はどちらかと言えば前者のような気がしてなりません。

コロナウィルスのため、東京オリンピック、パラリンピックは１年延期となりました。もし収束しないとき、バッハ会長は来年どんな決断をするのでしょうか。